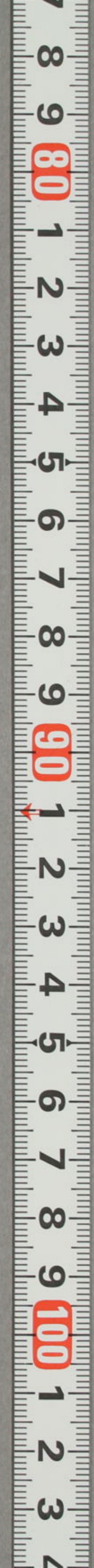


近江縣物語

卷之四

~ 13  
3301  
4



門へ12  
3301  
4

近江縣物語卷之四

ふくろのりや

ちりに多<sup>と</sup>衣<sup>い</sup>丸<sup>まる</sup>といふ盗人<sup>たうじん</sup>ハ鏡山<sup>かみりやま</sup>のあふに陣屋<sup>じんや</sup>とまうけ  
わくのよ<sup>よ</sup>釘<sup>かぎ</sup>ぬき<sup>ぬき</sup>ちり<sup>ちり</sup>。堅固<sup>けんこ</sup>よか<sup>よか</sup>を守<sup>まも</sup>り<sup>り</sup>のり<sup>り</sup>を  
此陣<sup>このじん</sup>あて<sup>あて</sup>ハ<sup>ハ</sup>捕<sup>とら</sup>り<sup>り</sup>セ<sup>セ</sup>る<sup>る</sup>女<sup>をんな</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>び<sup>び</sup>よ<sup>よ</sup>は<sup>は</sup>と<sup>と</sup>免<sup>ま</sup>置<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>身<sup>み</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を  
出<sup>い</sup>さん<sup>さん</sup>者<sup>もの</sup>よ<sup>よ</sup>ハ<sup>ハ</sup>賣<sup>う</sup>り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>や<sup>や</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>き<sup>き</sup>と<sup>と</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>ち<sup>ち</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>び<sup>び</sup>の  
す<sup>す</sup>め<sup>め</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>り<sup>り</sup>ハ<sup>ハ</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>人<sup>ひと</sup>も<sup>も</sup>り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>れ<sup>れ</sup>ハ<sup>ハ</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>川<sup>がわ</sup>の  
ほ<sup>ほ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>かり<sup>かり</sup>ハ<sup>ハ</sup>お<sup>お</sup>屋<sup>や</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>び<sup>び</sup>と<sup>と</sup>常<sup>つね</sup>なる<sup>なる</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>人<sup>びと</sup>の<sup>の</sup>ご<sup>ご</sup>と  
出<sup>い</sup>て<sup>て</sup>が<sup>が</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>ハ<sup>ハ</sup>女<sup>をんな</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>び<sup>び</sup>よ<sup>よ</sup>は<sup>は</sup>と<sup>と</sup>免<sup>ま</sup>置<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>身<sup>み</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を  
一<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>して<sup>して</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>ハ<sup>ハ</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>れ<sup>れ</sup>ハ<sup>ハ</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>川<sup>がわ</sup>の  
一<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>して<sup>して</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>ハ<sup>ハ</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>れ<sup>れ</sup>ハ<sup>ハ</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>川<sup>がわ</sup>の

大正十年八月廿九日  
本大學出版部  
贈

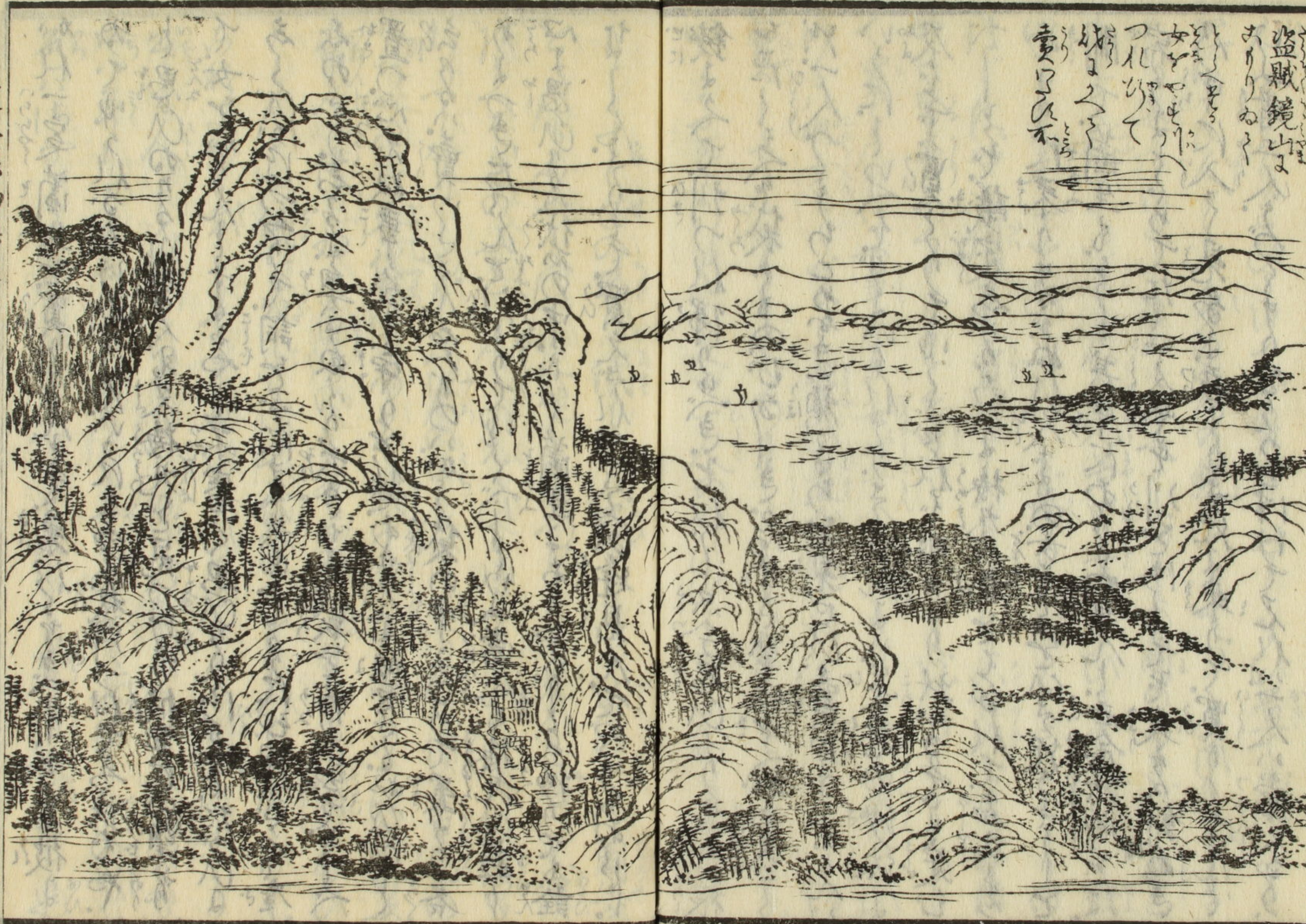
近江縣物語卷之四

〇一

人ぐもり。さひらけて。ぬをりて。や。や。ひ置て。い。ほ。い。と  
おぼへん人。く。い。身の。あ。りの。錢。り。て。き。て。つ。く。の。ひ。ま。す。か  
と。ち。返。し。つ。く。し。ま。お。く。す。べ。し。つ。く。の。國。の。あ。ま。び。と。基。と  
う。り。て。札。う。て。た。り。た。れ。を。老。若。男。女。つ。と。ひ。ま。す。て。お。の。つ。錢  
ほ。い。て。妻。子。と。ひ。ま。す。つ。り。て。も。ゆ。り。ら。お。う。そ。三。日。を。り。の  
ほ。い。た。や。す。川。を。て。賣。り。つ。つ。女。を。し。ふ。百人。を。り。お。ほ  
か。る。皆。賣。つ。つ。し。ら。る。と。を。ゆ。え。し。あ。り。か。い。川。を。り。も。さ  
て。買。い。ん。し。し。し。事。や。ま。女。四。五。人。を。残。り。ら。る。多。良。丸。の。ひ  
け。ら。ハ。此。女。を。ら。な。ぐ。養。ひ。置。お。は。ほ。く。の。米。を。う。つ。ひ  
費。し。や。ん。さ。り。と。そ。う。ち。ま。て。ん。ハ。軍。令。を。破。る。は。り。  
い。う。は。せ。ど。よ。か。ん。と。り。ど。一。人。の。ぬ。ひ。び。と。云。ら。る。ハ。か。る。者。ハ。い。

錢。よ。う。て。打。つ。れ。俵。り。ゆ。ぎ。と。し。が。一。只。今。思。ひ。ま。り。ハ。兵。糧  
と。た。く。ま。の。袋。と。も。の。じ。か。し。き。が。の。ま。し。い。の。中。ハ。か。の。女。を  
一。人。づ。つ。ち。こ。め。お。き。類。を。ち。と。見。せ。ひ。賣。り。つ。く。い。え。ハ  
い。う。た。と。り。を。が。い。を。れ。り。さ。う。ん。ハ。美。惡。の。沙。汰。よ  
及。を。ず。買。り。と。り。て。ゆ。く。べ。ん。を。明日。より。此。お。き。て。よ。定。む  
べ。し。と。も。議。定。あ。り。ら。る。梅。丸。ハ。都。を。と。ら。れ。て。石。山。も。ち  
あ。り。に。来。り。ら。る。が。ぬ。い。人。と。の。女。を。ら。と。ひ。さ。れ。う。り。と  
聞。て。菌。生。も。と。し。其。中。に。あ。り。や。せん。と。西。念。法。師。と。は。  
宥。り。よ。と。め。て。た。ぐ。一。人。や。と。川。を。ゆ。り。て。来。ら。る。釘。ね。き  
乃。中。に。入。り。見。あ。る。吾。より。う。れ。よ。来。り。て。買。り。と。め。ん。と  
い。ふ。者。二。人。づ。つ。く。ま。り。と。り。を。は。け。て。え。れ。バ。一。人。ハ。常。人。あり。

盗賊鏡山  
ありりぬ  
女や川  
つれづれ  
戦ふ  
賣りぬ



かれ一定菌生を買とらんとして来はるやべーと彼も  
 かねてゆりかたをばいかにいふたもあて我引つしてうらむを  
 と思ひぬらる常人も又梅丸と見つけて彼あたの望有  
 て女をかんとするやと不審く思ひたりしほどだがひ  
 あらびがはつりて詞をたれまどへもなるにむらぶて産  
 志ぬらりあるよ奥がぬらり犬きかむ袋と荷ひ出でた  
 置つ心えぬ事ふし守りたれとおき入は似せともぬひびと  
 云らる賣つてらんあふめか袋の中よこちて置り各  
 めよつきたらんをゆりてゆくべーと常人も梅丸も衆  
 心よ思ひるハ代の中り菌生よあらずはりしちゆりても詮  
 ならんとして買えればあつて逢見んでがりのあつど

りす世の取り浅くす買りたる袋の中は菌生  
 せんもあつてびとたかよあつて見んと思ひて價  
 ばとをまきのよをばんのえびよゆりてひはれたる價も  
 たらふかりしりよハ袋の中よこち置つれば價は甲乙の  
 別りあつて各袋ひつりて錢十貫文は賣りては之と  
 常人が傳よおる男ついであつておのれはあつた袋をかひ  
 とらんとして錢をゆりてはて袋の中よこちあつてはけ  
 あつてある方よりてきよめむむびりてきよていむ中り  
 出する人をとればをらる女の目ハかあつりやうに光りて  
 口の身りしすをひろあつて上下の歯ハ水せく杭の如く  
 色ハちがうくちがねとのべりかあつて昔僧伽多を追

かけ来たりし。羅刹女とりし物もかぎりんしと思ふ。けひ  
 丹波の國の山へげまわひ申し。狩人の娘をいかにかけも  
 賣つてさして取らるるをさして過し。春のはは四條あり  
 三十日をりたりて鬼をいかにせんか。とて者ぞありし  
 我を妻と志めつて取らるるをいかにせんか。とて者ぞありし  
 ありしをいかにせんか。とて者ぞありし。とて者ぞありし。とて者ぞありし。

買えりし女とすて置いていんよを頭とまにし。親がこの  
 仰せなりしがのれわてゆるぬあやしのふれ女いふわさるる  
 男が手とりて外面に夜又かひも同心の菩薩をのりし  
 いば入るるに思ふことか。とて者ぞありし。とて者ぞありし。

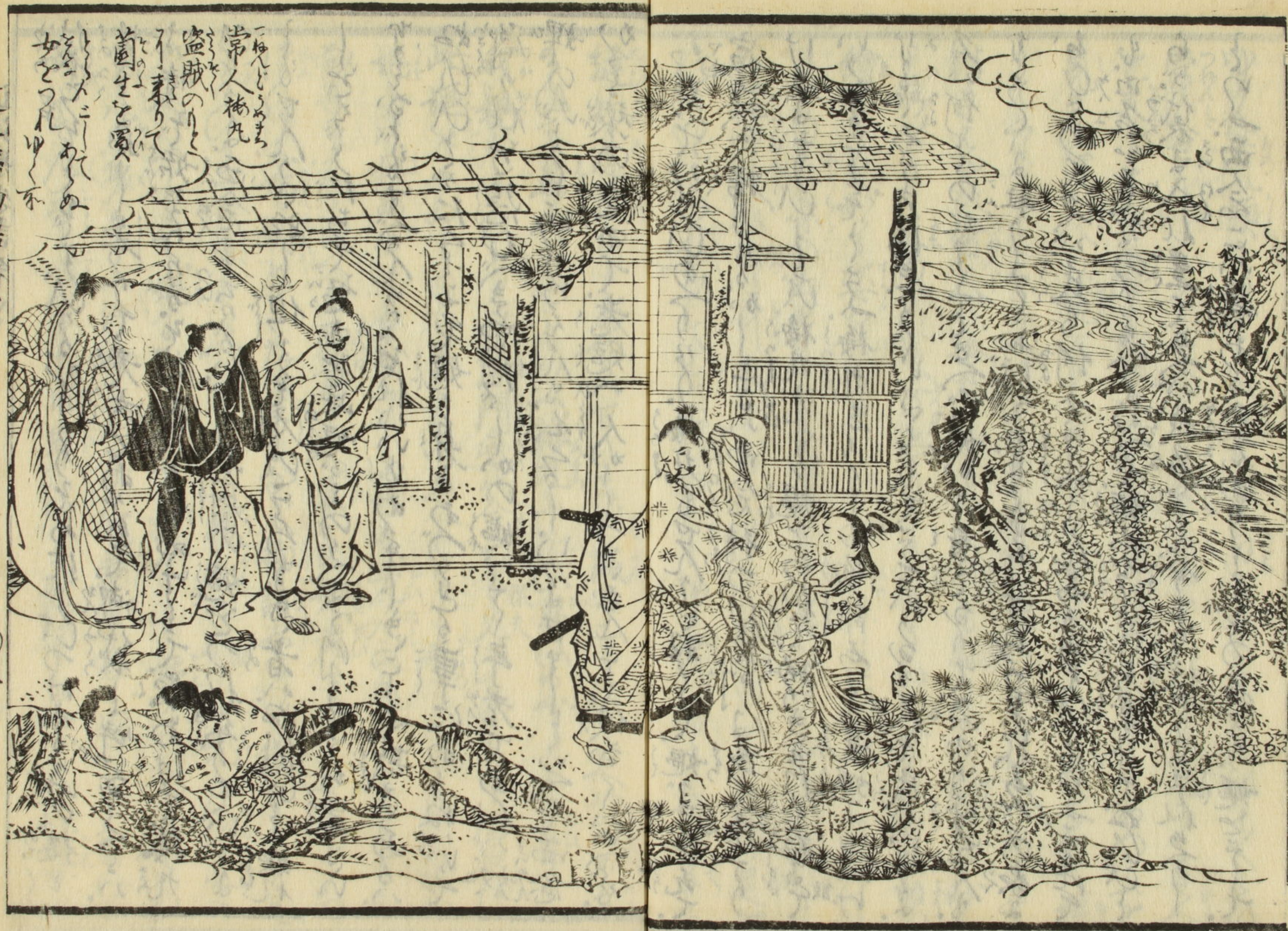
念願を成す代衣の口どひききて、たてた。菌生よ、いひつらる。  
と、十よにありて、髪は白く、針とあるが、たれ老ら  
ぬ。姫よ、そ有り。梅丸ありのことに、詞も出ず。尻居り  
ら、座して、いきれわたり。姫よ、あはれ。顔りて、あけて。  
君らあど、うらめしき。いれも、親族の人、あれ。目を、とへ  
あ、迎ふ。まき、つら。い。時、く。その、一。倍と、か、て  
ひ、ひ、す。あ、せ。ん。と、い。く。梅丸、身にも、入れず。さ、あ、ね、い  
たり、く。し、ひ、て、大息、つ。ま、そ、り、常人、も、う、た、見、や、り、て、あ、り  
か、は、ま、あ、ら、ひ、ひ、て、お、し、ら、ふ、り、錢十貫、と、り、出、て、投、や、し、が、あ  
代衣、り、と、ま、り、て、我、意、人、と、く、あ、ま、し、り、ひ、て、袋、の、口、は、  
い、け、ん、と、ひ、ら、い、ぬ、で、出、も、や、で、大、き、な、る、聲、を、て、け、ら、く、と

うらひ、ひ、て、手、う、ち、た、た、て、と、ぞ、の、あ、ら、り、を、わ、く、常人、は、い、は  
きは、れた、つ、常人、か、ど、り、き、て、見、れ、を、さ、び、過、る、女、の、さ、け、高、く  
や、で、の、が、ま、や、ま、お、す、と、ぞ、と、あ、ら、ひ、見、ま、り、つ、我、ぞ、と、い、つ、  
思、ふ、あ、や、ち、の、郡、の、大、領、が、ま、も、む、も、あ、お、し、む、す、あ、あ、の、が、ま、と、舟、は、  
い、か、の、と、と、な、り、姫、の、泣、を、さ、も、置、る、あ、り、て、さ、あ、い、を、れ、も、く、  
梅、づ、ん、と、い、ひ、て、さ、く、ほ、く、ぎ、の、あ、ま、き、く、財、を、執、ら、ぬ、ま、  
い、ま、よ、う、あ、ら、ひ、く、い、ひ、つ、常人、が、顔、を、さ、ん、と、これ、が、つ、が、男、が、り  
と、や、あ、ら、る、男、の、い、ろ、と、あ、く、癩、瘡、の、あ、と、さ、あ、ほ、り、佛、つ、ら  
ら、た、と、さ、つ、び、あ、その、鼻、の、う、や、ほ、ま、ま、い、ひ、ひ、て、  
う、り、が、い、ぬ、て、う、ら、め、し、き、つ、常人、こ、や、つ、物、づ、ら、ひ、よ  
も、し、ぬ、出、ん、と、す、と、ぬ、ひ、び、ら、い、く、て、女、を、す、ま、あ、

ゆん者ハ頭うらちも定めど力も手せうけてひくも  
常人せんさくあづくは女の手とらん見あきき人  
とましくすまやハ頭うらちも定めど力も手せうけてひくも  
見くぬい入ら繩とちきたりて女を常人は員をせて繩  
りてらくくもつらつ付けてさハ足のひだたんさつねとて  
はきるも常人ハ梅丸ガおもん所も袖く面月をば  
うけくもまあがんだ女をやりうは聲うらわけていせ物語の  
繪ももかき姿をばきたれ押れりもひださくく  
り乃在原のおもんこそおもも鼻ひきくおまのわし  
り常人ひ出る汁顔あかくりて物かひいそと女が足と  
はくつらたれひて出て行ありしゆぬひびもももあ

たててけいひありりり梅丸もせんさくおつて姫の手とて  
宿へを帰りりるがこよハ西念待つけて門は立て居り  
けりよありひも梅丸先ハ姫とつれて海きなれを船  
いうもこをとも梅丸あつての物語も先姫よりけ  
りてあつらけきくもりてさつていりる人を氏いりよ  
名ハ何とのたまもてんハ姫が身もりて名のりせせんも  
ななくも耻しめおぼへひりもりすづりおれたあづの  
おじとてゆハ氏も何とやせんありゆをびとりよさるは  
も内名をどなつていりもてんハ姫をちりち案てぬひび  
らが袋よ入れ置てゆハ我名と今より袋とめさしゆ  
といハ西念ハ無あるゆ名かりとそその夜なり姫とて





二枚じらま  
 常人梅丸  
 盗賊のり  
 一、まりて  
 菌生を買  
 女をつれ  
 女をつれ

江戸界守言老

侍衣<sup>やう</sup>君<sup>きみ</sup>とそとをよびたる。かづりりそあにらびつけたる。為<sup>ため</sup>の後<sup>のち</sup>と  
世<sup>よ</sup>中<sup>なかつ</sup>まおしーうりて。老女<sup>らうにょ</sup>とあがりて。御袋<sup>ごふくろ</sup>と呼<sup>よ</sup>あくる。ハ  
し時<sup>とき</sup>を始<sup>はじめ</sup>まりりり。その夜<sup>よ</sup>いひちやすて。取<sup>と</sup>わけて。梅丸<sup>うめまる</sup>  
ひそくよ。西念<sup>さいねん</sup>よ云<sup>い</sup>ひ。かゝる不用<sup>ふよう</sup>の姫<sup>ひめ</sup>とつれ。年<sup>とし</sup>りて。い  
もせん。さねし。但<sup>が</sup>も人のこころをさし者<sup>もの</sup>は。ねいびと欺<sup>あざむ</sup>れ  
しとちうだちて。怒<sup>いか</sup>りて。此<sup>この</sup>姫<sup>ひめ</sup>が。この人<sup>ひと</sup>は。うりて。ち罵<sup>のの</sup>さい  
か。さむす。えん。と。い。い。と。あ。事<sup>こと</sup>も。ま。こ。と。欺<sup>あざむ</sup>き。あ。ハ  
ぬいびと。か。た。く。め。て。姫<sup>ひめ</sup>が。身<sup>み</sup>は。あ。づ。り。事<sup>こと</sup>にあ。ら。ね。い。ぞ  
聊<sup>いささ</sup>うれと。怒<sup>いか</sup>む。ま。や。だ。さ。か。の。姫<sup>ひめ</sup>は。年<sup>とし</sup>老<sup>らう</sup>て。あ。い。バ。奴<sup>やつ</sup>  
婢<sup>ひめ</sup>の。お。と。け。ら。ん。ん。さ。ら。う。せ。ま。し。と。く。む。西<sup>さい</sup>念<sup>ねん</sup>  
か。旅<sup>たび</sup>の。空<sup>そら</sup>あ。て。老<sup>らう</sup>姫<sup>ひめ</sup>一<sup>ひと</sup>人<sup>ひとり</sup>か。づ。き。ま。ん。て。使<sup>つか</sup>る。く。ハ。い。ぶ。

縫物<sup>ぬいもの</sup>洗物<sup>せんもの</sup>かど。あつ。六<sup>む</sup>せん。六<sup>む</sup>。一<sup>ひと</sup>段<sup>だん</sup>の。こ。と。に。く。ま。ハ。留<sup>とど</sup>め。置<sup>お</sup>  
め。ひ。て。怒<sup>いか</sup>む。べ。く。や。し。く。梅丸<sup>うめまる</sup>さ。び。思<sup>おも</sup>ひ。あ。づ。り。て。云<sup>い</sup>ひ。ハ。  
我<sup>わが</sup>親<sup>おや</sup>し。この。つ。左<sup>さ</sup>衛<sup>ゑ</sup>門<sup>もん</sup>屋<sup>や</sup>ハ。今<sup>いま</sup>や。親<sup>おや</sup>夫<sup>とこ</sup>が。ち。あ。せ。は。  
此<sup>この</sup>姫<sup>ひめ</sup>と。ま。の。し。せ。て。内<sup>うち</sup>を。む。つ。く。と。ち。り。奉<sup>ほう</sup>ん。ん。ん。も。か。の  
姫<sup>ひめ</sup>と。ハ。お。あ。り。く。あ。ら。う。あ。せ。を。老<sup>らう</sup>人<sup>ひと</sup>の。内<sup>うち</sup>や。と。さ。あ。と。も  
あり。ま。ん。し。り。を。西<sup>さい</sup>念<sup>ねん</sup>が。い。つ。か。の。姫<sup>ひめ</sup>老<sup>らう</sup>女<sup>にょ</sup>と。い。と。う。ち  
は。け。ハ。婚<sup>こん</sup>姻<sup>いん</sup>あ。り。た。る。事<sup>こと</sup>を。ど。物<sup>もの</sup>語<sup>ご</sup>と。あ。つ。俄<sup>はな</sup>や。も。こ。と。見<sup>み</sup>  
う。さ。い。く。さ。る。事<sup>こと</sup>も。ゆ。べ。く。し。り。梅丸<sup>うめまる</sup>さ。か。し。先<sup>ま</sup>左<sup>さ</sup>衛<sup>ゑ</sup>門<sup>もん</sup>屋<sup>や</sup>の。内<sup>うち</sup>  
の。く。ハ。つ。つ。て。姫<sup>ひめ</sup>は。か。づ。り。て。見<sup>み</sup>ん。と。て。姫<sup>ひめ</sup>と。ち。う。づ。つ。て。い。ひ  
ら。は。内<sup>うち</sup>身<sup>み</sup>年<sup>とし</sup>ふ。け。ね。人<sup>ひと</sup>や。る。と。若<sup>わ</sup>輩<sup>ばい</sup>も。の。つ。ね。と。が。あ。ち。け。よ  
呼<sup>よ</sup>ぶ。ま。ん。事<sup>こと</sup>。心<sup>こころ</sup>づ。く。し。内<sup>うち</sup>身<sup>み</sup>い。り。よ。お。ほ。す。あ。づ。り。ハ。姫<sup>ひめ</sup>か。び

近江県生言卷四

さかの娘 姫はんのゆらんをけやぶくはつりて飯をも  
 かき氷をもくきりて下女とおぼしてつるをせるといふは  
 梅丸頭よりて裁よりくさむおとこの子一倍あやまり  
 うつらん親子といひてもおけなうびおのれ知手時より母  
 別まてくだのまわさる人もおけさる今よりぬ身を  
 仰ぎて我母人と形てつる春さんと思ふといふはゆらん  
 らんやといふは姫鶴馬きたる顔よををさくして手をおをせ  
 くらしてもおひのけぬ事とのろふ物なるを涙とさかひ梅丸  
 はん我れごしよあつび今日より母人とおぼさんと手と  
 とりて坐を譲り頭をさけて禮をさかひは姫あか  
 おけおやといふとておぼして梅丸うがへ婦てたが姫

心におひつるあつたのあつたにかくちまけあつらんを  
 せいもいふつぎて此人の恩よむらうし思ひぢが  
 ふとらつづきるハ我盗人のりよををれとちりし  
 やまひつらうらうらうき人のけりしかれとらう  
 乃妻しかしねも御恩とむくゆるまらぬべくや  
 て梅丸よむらひてけ君ハ内妻のせをあやとをを梅丸  
 いりび定まらうとていふは姫さかへ  
 美人のこごねよえおてまりあひて内妻とせのえ  
 かんといふ梅丸も美人いづらよ作とてを姫此美人  
 ち計まらをびつらうとていふはかまを此やまの  
 一又さりとれき烈女あておをひとくやす川は行ひて

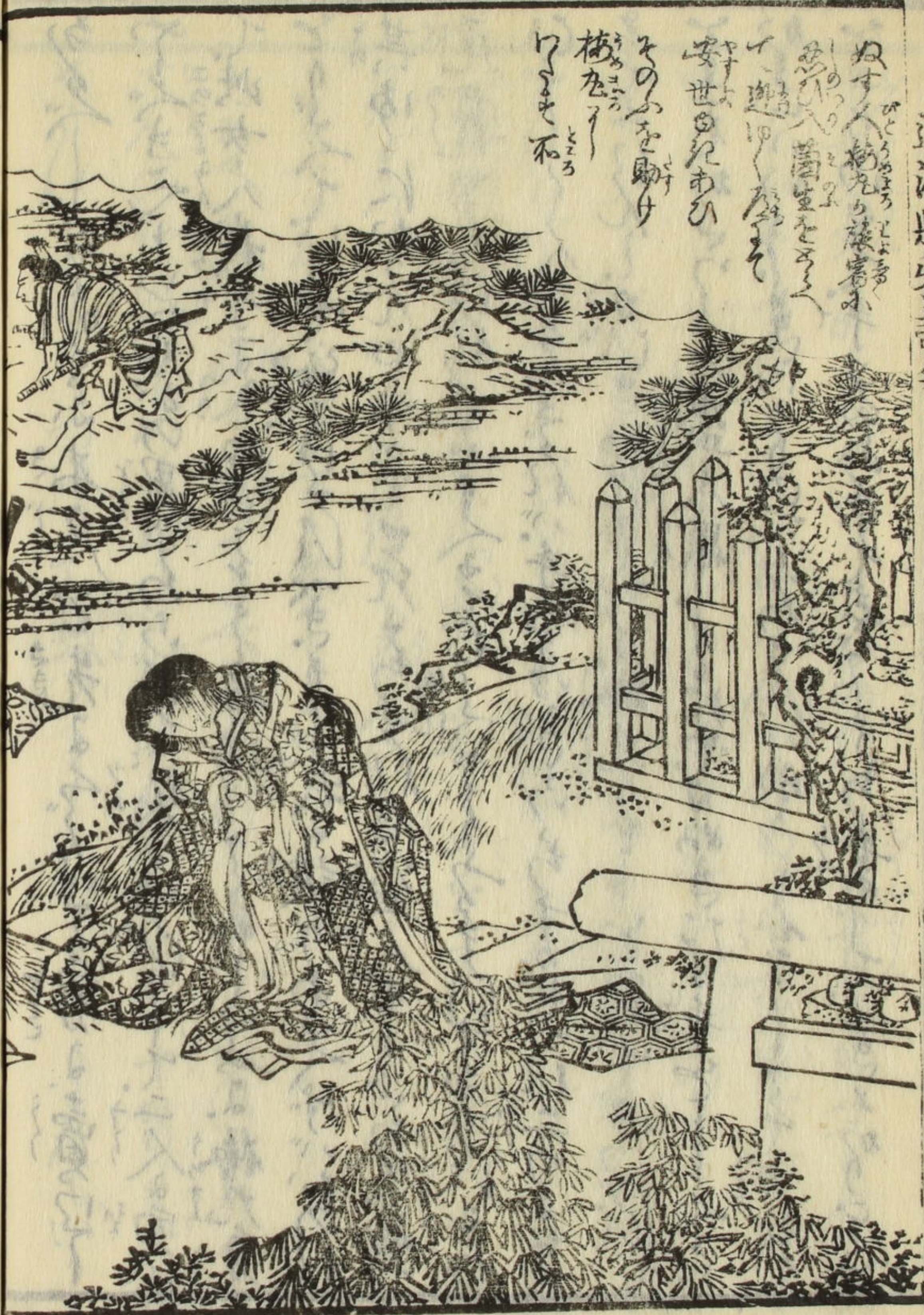
近江源物語卷四

おるひてありのくも。明日いそがしを人の手よ入ん。  
 其時くゆもいひかへんとし。梅丸ねもびとさう  
 を仕てさえをいひ。守りしといふあるも。  
 語り多し。いそがしを。梅丸ねもびとさう  
 ありのくもいひかへんとし。梅丸ねもびとさう  
 と具人として買とん。又もいひかへんとし。梅丸ねも  
 来り人いひかへんとし。梅丸ねもびとさう  
 うの美人帯に尺をりある物と。大事として。腰のあり  
 よさして。おんせ。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 ひとと。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう

物として。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 たり。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 さる。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 待り。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 うして。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 西念と。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 かて。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 出て。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 志る。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 ひいて。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう  
 へ。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう。梅丸ねもびとさう



ぬす人梅丸は遠慮なく  
おのれ入道堂をさそく  
て、遊ゆく所も  
安世のたむひ  
そのふを助け  
梅丸を  
けりて不



いし聲わてやたらんけり梅丸きくより我をいして  
そのとてどざりたちてよりあふと二人の男不典はさるだけあるは  
あて物ともいふ頭をたすどざり梅丸がひるふてきて  
袋をひきて出なを此二人のいの共いよくあつて  
いふふぬやん事やむりひびく心つきて懐り銀も出て  
紙よつてねひひもがまは置いていひる。此袋このまゝあか  
せうはくりて存ひまゝ人あふりかへびんといふを安きこと  
そとて士卒二人もい出く。汝の袋を昇てかれが宿りまを  
送り行すといふ。士卒拐と袋のむきびりまはし入れ  
おやういあげく。梅丸いふたちて引をひてゆく。西念ハおはせ  
はる事姫よあつて先よさちてより帰りにこれいひせ

近江縣物語卷四



おりのいへるは君よのちりて見参入るるをねをいひて  
 せりくあくるまひまはるるを蘭生梅丸とゆびさし  
 けきにあとに物語あてけりし夫とすつるは夫あて  
 せししを娘もさうちてわねいあもあくぬえと語り出り  
 りねをさうくまはるの繁りかちりりるはなうひさしを  
 とハ我と母しやまひま事のがれしをばそのむしせん  
 おりとの節義とをむせよわさるるはむむとせんし  
 一ハやせうぬ衆かりしがはらうかひてをゆひ  
 かくはるの夫君よめりわひひハがみまをらたし  
 神佛の感トあひてたけしや縁とさびむすびま  
 と語りだ蘭生さてハ親子の繁りまのちやまバ我と

ふも姑の君あてをかせと居やけりて娘を拜せ梅丸が  
 してこのさびの事母人のさへあびいそ夫婦さび相違  
 しつらんたひとは母の法めくさりと頭とさげていへ娘人  
 くのちろのさまふふのいりまりのちつれ母あつありとい  
 夫婦の人くさりとていたくやまひまおしを夫婦いよく頭と  
 さびて拜りたり蘭生さるる色取てこれハ君よりあへて  
 まりしやあぢも身をさあびりあてをゆいふハあぢを  
 ねえし一持もゆひつれどさびめりちひまあつすすまてハ  
 ひとまがめときを忍びてかちりあてゆひつとて梅丸は見れば  
 娘蘭生が賊營まありて巴豆を用ひて病婦しつるり次  
 せしむる一語つるるを聞て梅丸西念も感トあつるり



父君いづくよかを以て之を蘭生する所にかまきりて逃出  
 多ひつれをぬゆへにありまわすせばだれぞおれがどし伊  
 賀の國ややすませりんあが君とく又君は尋ねあひ多ひ  
 てぬひびとたにひらぎをさびりとの家は帰りのひ父のあとと  
 つぎまがしとて梅丸いかに別は父とたのまはる人あり  
 るうこの家と継ぐを安世との家お漢せんといひいもむび  
 とひまのしと少く姫うと泣ゆていまがひやれは我身よそ  
 何れかくぬま老ゆくと子とりよのあざしをたは夫とが  
 うひくさるべき人を養子しかりいぞ家をもつぎせむやとあひ  
 つりに養子のことと置てぬひびとのうらま家をも財をも  
 かり子もさかづかつりことと成てぶらう成てく又さび

けりうき身よそつ君さち夫婦よりあひて語りまふさき  
 ちも何をれやる身ハおまどい梅丸やれちち一ゆとさうりもふと  
 ちけを梅丸いさめて某かくてゆへハ子やしとれ思ひ多ひを遠  
 かづびして内親族の人くちもあをせまわすべしこちづ  
 おぼたれよるにさも今ハ名のり多しといひを姫あつくは昔語り  
 せんもんぢがやうく又を又とついであをさすをさだめも  
 申せしどく氏もやれ田夫の妻やりとおぼせかしくりや  
 子細くもあつとてあながらちも同をびきてやまねその夜姫ひ  
 るのハり吉日やれば婚姻のさうづきあつとて梅丸くち  
 うちあつて此事いさし又よあをせすべしはげしくはさう行ふ  
 べしびとに對面せ別を奉りし母人のやうあり多ひ

いくぐくの月日もたぐしがはるまじいもぐりぬす。菌生  
 どのと何があひ寄るハ師ある人の恩はむくゆる免れ我情  
 慾のらちあてはぬをすといふま。人々まじく感入ぬさへ壺と  
 菌生とひとりのあまふき免。梅丸西念ハ屏風をぞく臥し居。  
 かくりハ弥生の末ありなるもけ家ハまがくま山ぐりのすまう  
 少て主ハ京より用ありとて梅丸よ何とを預てあか  
 らるまうしあま行なれば外よ人も取しがる草ぶきのあれらる  
 宿かぐ。夜あけぬれば春とて鶯あまの庭にまてをるやう  
 一かぐりり人ハはせぐりのつりれまら。いれど。何さいあぐ  
 起も出す。菌生ハうれしこのあまのりえねもやそありなれを。  
 とく起てやりとめてあまの柱は脊あまうつくわれる庭ち

まが免る。竹ちりく。いどねハセドかどらちずさ。わらに敷  
 垣のそりうとやれをねぐとわらあやと思ひてえやうた  
 一。ちいかくてあやまれ男は頬ぐりあるが敷あしつけばく  
 入来て物をもいす。菌生と抱きてゆんとい。菌生を声をあけて  
 ぬひびとそあれありくとさけへ。人々驚き起りて見らる。  
 盗人菌生と二つ手にをさして走る。西念あうまぶのまに。追  
 て。好すびとの腰は手とつけてやうと引とあねすびと足とあ  
 げく。げくと蹴られ。あざりあざりて。様さぬは倒れぬ。梅丸  
 カとりて追うけ。一町あまりおそれぬ。菌生をさうけり。あねすび  
 乃とりて行て。さしけり。あねすびハ飛び汁。走りゆけ  
 追つぐ。あまあ。び。危きこととむゆ。かま。向いぬる方より。

江戸異言巻六



梅丸蘭生と  
 ぬす人よ奪えん  
 川久安世母あひ  
 てこりしれ光  
 のりく同なる不



三思子語巻四  
 一七

おどろかされてはもはひされぬも着る侍のどくし何ゆみ  
 来りつがつかくとりて盗人が項いはるてうにかさばぬす人の  
 きたる菌生とすてつり返りてぬきうちになんとかさを侍とぞと  
 りて胸のあつを突かしむにちあきすちばひて倒せぬやがて刀  
 巻る緒纒とりてひきさらり梅丸西念もあひくつけ丹りて  
 ころと妻ととり返つて手とつし頭をさけてちるむかの侍に  
 女はつどの妻まであさとりさあてひきの賊營よりあがりひ  
 えしてはせりてゆえとぞ侍扇のありして何き笠りえあけぬ  
 うち見えやとぞ梅丸あせいおんまびやとりひいある人ぞとぞ  
 さして久く逢まぬせしむといひつあさとりたる親とぞは  
 師とよしたる橋の安世たりり梅丸地はいれあして少くも

詞もゆりむとてかこする菌生ハ父君をいつせもふらり  
 こもしてそのつきなく安世も涙といようけて菌生が手段  
 こりてあざさきりひて物いをひるにてもかこくも賊營の  
 せゆ梅丸めくりあひる由こにすく世の笑りあさかぶり  
 めよとそらうぶ梅丸盗人と引さんして顔を見せバきのやを  
 川あて生あひ旅人なりあさいぞわんと橋りそく安世とお肉  
 めく宿りともやひ二半は始終の物語してあざ時をふらり  
 安世ぬびとも向ひるおのれいある者ようららけて娘をバめてゆ  
 んとせしつまず語れいさくんお頭うちを身らんと刀を手  
 かけてせむれぬびともほくとりて何事をうつしおのれ  
 常にむくちをけぶして世をいとあしめ神崎あら常人と

近江縣物語卷之

人よかゝつてきて、まのよやすり、まよりて、彼女人買とらんといふ  
 せしに、もたぐひて、ゆをひそく、跡よつき、追行て、奪ひ、素仕、他人  
 どの安川、忍び、ひめて、不知、せり、して、ゆをぶ、より、け、教、地、の中、り  
 隠、れ、めて、ゆ、と、い、安世、又、問、る、八、常、人、ハ、何、も、神、話、よ、隔、り  
 住、て、さ、る、ぞ、とい、む、さん、ん、叔、父、あ、る、人、の、だ、く、を、か、り、か、り、か、り、財  
 とも、と、も、ぐ、く、垢、い、て、同、あ、す、ま、ひ、て、今、ハ、左、右、ヤ、長、者  
 こと、か、つ、て、い、し、り、す、安世、梅、丸、向、ひ、て、常、人、ハ、い、く、あ、つ、て、我、ら、が  
 め、置、つ、る、所、と、り、く、る、よ、う、か、つ、つ、後、え、ぬ、事、あり、その、い、や、ら、ぶ、は、う、ま、こ  
 伊、賀、の、國、を、我、が、ま、ご、う、入、り、て、皮、籠、い、と、ろ、ぬ、は、て、出、行、さ、り、  
 と、の、ち、は、重、代、つ、た、ら、な、大、切、乃、鎧、一、領、あり、き、た、ら、も、も、は  
 と、く、む、に、た、ら、ず、此、鎧、の、い、そ、と、り、て、え、ん、と、思、ふ、ま、り、か、や、つ

するくの悪行、口、い、ふ、今日、娘、蘭、生、と、え、奪、ひ、と、らん、せ、ん、  
 言語、また、へ、る、悪、人、返、ひ、く、不、當、の、や、つ、こ、り、し、く、今、も、思、ひ、  
 せん、ぞ、と、え、又、盗、人、と、向、ひ、て、お、の、ま、け、ま、放、ち、か、へ、し、を、此、う、常、人  
 ぶ、告、め、せん、疑、か、し、け、つ、た、お、つ、逃、か、く、れ、ん、も、あ、ら、う、い、は、  
 う、り、て、あ、ら、う、お、の、れ、と、つ、る、お、く、そ、と、そ、庭、を、樹、よ、り、置、て、  
 又、四、方、山、の、物、後、あ、ら、わ、ら、う、安世、あ、り、ば、を、存、り、て、ま、手、を、つ、き、  
 云、ら、ハ、あ、り、と、見、し、し、お、ひ、ま、お、く、と、て、あ、ら、う、身、後、ま、り、い、か、れ  
 かる、門、よ、あ、く、ま、の、え、て、ゆ、を、い、と、い、り、て、ゆ、あり、あ、せ、ま、  
 が、と、く、頼、光、朝、臣、に、い、ふ、り、石、山、ま、り、り、て、お、ら、う、ま、は、い、と、出、  
 たり、せ、ま、い、お、ん、と、申、す、安世、ま、ね、て、梅、丸、は、む、う、ひ、て、お、の、れ、頼、光、朝  
 臣、と、い、や、く、り、文學、の、う、あ、て、ハ、師、尊、の、あ、ら、う、い、り、と、あ、ら、う、  
 〇二十

ありひてありまの石山いーやまよりでよりなるにおのしほかきふ  
 べき事ことありかこして對面たいめん見んとて四五日いーかちたれは我わがつくもがこ  
 使つかりつるばり出いで道みちまでおりいさるびんいんくまわひぬ  
 いさや梅丸うめまるぬ。輕光かひ相あひあひ武將ぶしょうでかちしゆす。  
 近このれと共ともかこしよいさる見けん泰たい入いあひさるやさるさ昇のぼ  
 進まるつんよすがごもかりぬべくやとさ梅丸うめまるさるしうち業わざ  
 かくさやづく侍つかまつんことハ親おやとのつる人ひとは若わかまるしせびで  
 ちびんさる。但たかりふ前まへ之のを見けん泰たい入い奉ほうりて賊徒そくど誅つ伐ばつの法はふ  
 支度しどなどくくしく承うけりさる存ぞん之のを供くわ侍つかまつりてまかりめんと  
 しく安世やすよ大おほよりこびてその親おやしよのまけり人も今いま世よをすそ  
 かん住すまりつと承うけしバそよのかりゆであんぞをさるこびりくそ

思おもひつるいさるいあさるいひさるんやとたもかくおも見けん泰たい  
 きてつておのし定まりまるといを園そん生せいはさるさる。姫ひめも西さい念ねんも  
 ともぐすめさるかをさるしよとて装束しょうそくささるおぼし  
 さる安世やすよハ具ぐしる従者じゆうしやハ盗人たうじんの繩なはとせしていさみ  
 ちちてさるちつれ行ゆきけ。

近江縣物語卷之四終

